

厚生労働行政推進調査事業費補助金（肝炎等克服政策研究事業）
分担研究報告書

相談員研修会事前レポートから検証する研修会参加者の課題について
～ 質的及び計量テキスト分析より

研究分担者 正木 尚彦 国立国際医療研究センターセンター病院
中央検査部門 臨床検査室医長

研究要旨 肝炎情報センターは肝疾患診療連携拠点病院の肝疾患相談・支援センター相談員向け研修会を平成22年度から開催し、参加者に対して「肝疾患診療連携拠点病院 相談員研修会事前レポート」の提出を義務づけてきた。平成23年から平成26年の間に提出された190レポートを、質的・計量的に解析した結果、肝疾患相談・支援センターの相談員の支援内容は多様であり、直面する主要な課題は、相談体制に関する項目、相談を行う上での支援技術、知識・情報に関する項目、広報や研修等に関する項目であることが明らかになった。また、相談員の職種の違いにより、課題内容には差異が見られた。相談員がより良い肝疾患相談支援を行うためには、相談員業務を円滑に遂行するための体制整備とともに、相談員が直面する具体的課題や職種の違いを考慮した研修プログラムの開発が非常に重要である。

研究協力者

北山裕子 国立国際医療研究センター
肝炎・免疫研究センター
上級研究員

A．研究目的

国立国際医療研究センター肝炎・免疫研究センター肝炎情報センター（以下、「肝炎情報センター」）は、平成22年度から拠点病院の肝疾患相談・支援センター等に所属する相談員向け研修会を実施し、受講の要件として「相談員研修会事前レポート」（以下、「事前レポート」）の提出を義務付けてきた。事前レポートでは、所属施設名、氏名、年齢、性別、職種、職種の経験年数、相談員業務が専任か兼任かという外的状況とともに、相談員として現在直面している課題や壁、研修会に求めていること（ニーズ）等の内的状況についての自由記述を依頼し、相談員の置かれて

いる現状等の把握と様々な検討を行ってきた。

B．研究方法

本研究では、これまで蓄積した事前レポート（平成23年度から平成26年度まで）の中で、肝疾患相談・支援センター等に在籍する相談員が直面している課題を質的、計量的に分析を行い、より効果的かつ実的な研修プログラム開発に向けての基礎的検討を行った。

（倫理面への配慮）

本研究では、事前レポートの提出に際してその内容を研修会の質向上のために利用する旨を伝えるとともに、解析結果の公表において施設名と個人が特定されないように個人情報保護の徹底に努めた。また本研究の遂行に関しては、国立国際医療研究センター倫理委員会において承認を得ている（承認番号：NCGM - 002078 - 00）。

C. 研究結果

1) 事前レポートの概要（属性）:

平成23年度から平成26年度までの拠点病院の相談員向け研修会出席者の職種、性別、職種の経験年数、年齢、専任・兼任を図1から図5に示した。

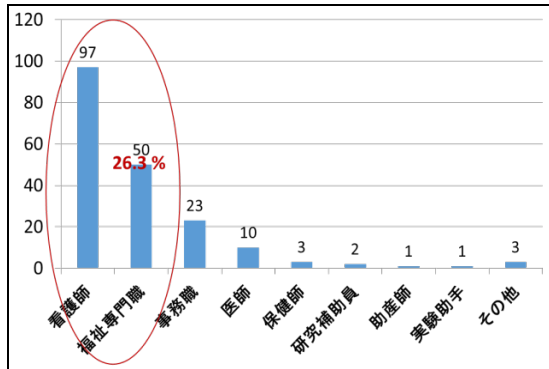


図1. 職種

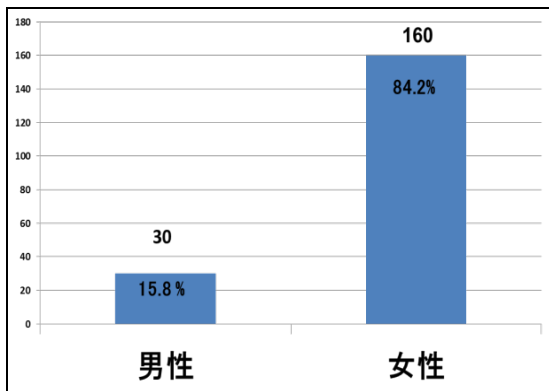


図2. 性別

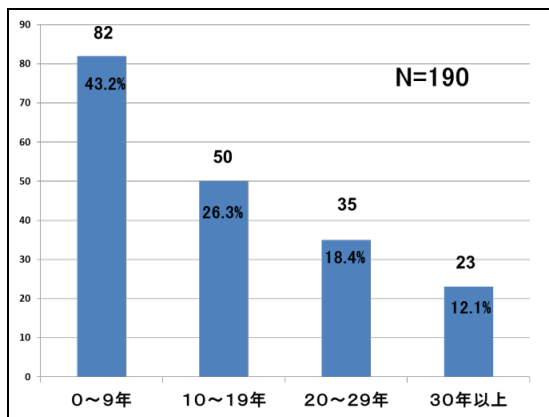


図3. 職種の経験年数

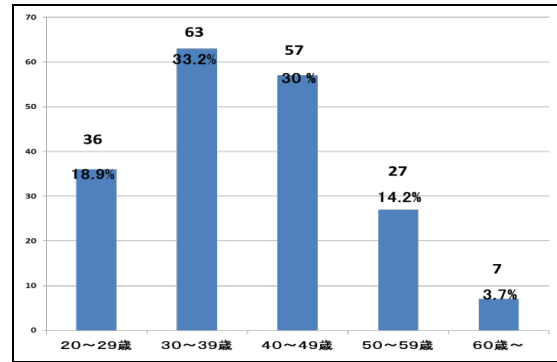


図4. 年齢

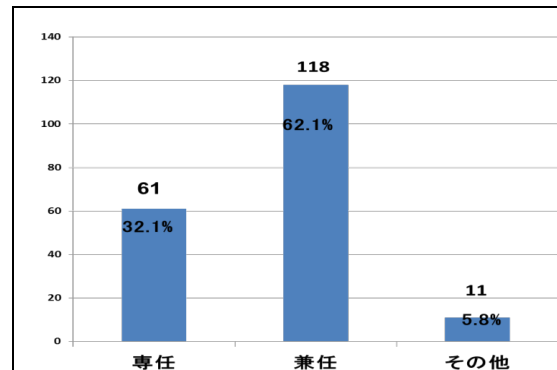


図5. 専任・兼任

2) 質的分析（自由記述データ）:

事前レポートの「相談員として現在直面している課題や壁につきあたっていること」という設問に対し、相談員1名あたり平均4つの課題を抱えていた。「課題」に関する内容の該当延べ数は775であり、45の小項目に類型化された（結果省略）。これをさらに細かく分析した結果、13項目の大項目に分類され、上位5項目は、「支援技術等（178）」、「相談体制に関する事項（145）」、「知識・情報（109）」、「広報・啓発・研修等（83）」、「相談の傾向（質）（51）」であった（図6）。

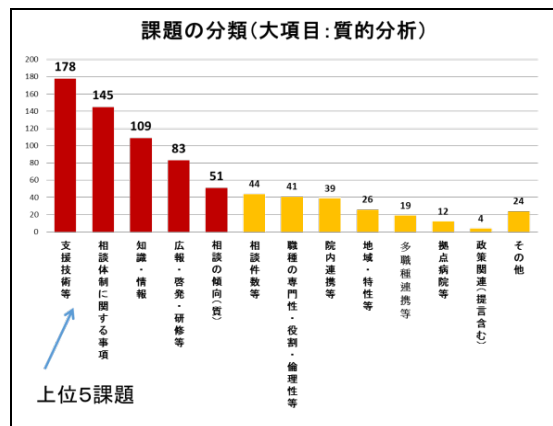


図6. 相談員が抱える課題（大項目）

3) 計量テキスト分析 (階層的クラスター分析):

自由記述データは8つのクラスターに分割された(図7)。デンドグラム上に示された各クラスターの特徴は以下となった。

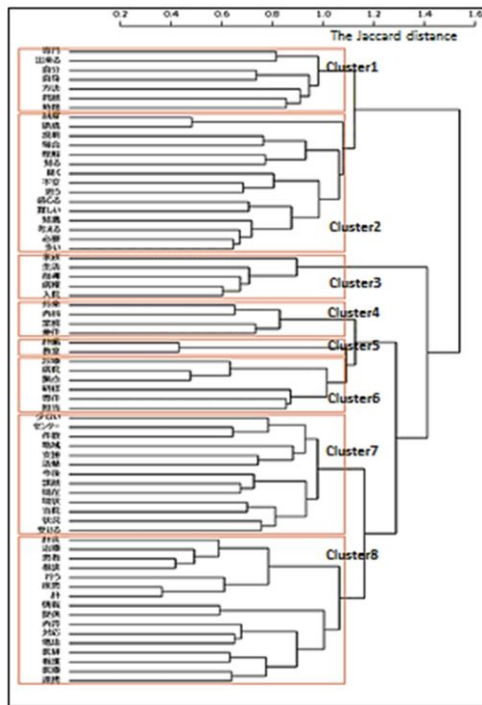


図7. 計量テキスト分析(階層的クラスター分析)

「クラスター1」は、相談体制上の問題や相談支援技術の不足等の悩みに関する語が表示された。「クラスター2」は、寄せられる相談内容の多様性や適切かつ十分な患者支援が行えていないのではないかと不安に関する語が表示された。「クラスター3」は、家族支援・調整を含めた患者の日常生活及び入院中の個別具体的な支援を行う上での課題と相談員の病棟での役割に関する語が表示された。「クラスター4」は、相談員の勤務体制を含めた相談体制に関する語が表示された。「クラスター5」は、肝臓病教室を行う上での広報、講義内容、運営面、参加数の低迷等に関する語が表示された。「クラスター6」は、各拠点病院における研修等の肝疾患診療連携拠点病院の機能に関する課題や、相

談体制上の課題に関する語が表示された。「クラスター7」は、肝疾患相談・支援センターの相談件数、活動上の課題に関する語が表示された。「クラスター8」は、情報収集、知識・技術の獲得等、患者支援の内容、院内連携等の課題に関する語が表示された。

4) コンピュータ集計による職種間(看護師・福祉専門職)の課題内容の差異:

「相談員が抱える課題(大項目)」(図6)で導き出された上位5項目を基にコーディング・ルールを作成し(省略)これらのコーディング・コードを用い、看護師と福祉専門職の二職種における自由記述データの総文章数中のコード出現率についてクロス集計を用いて検証した(表1)。

両職種において「相談と相談体制に関すること」が最も高い数値を示した。職業別に見ると看護師では「支援技術等に関すること」を課題と捉えている割合が福祉専門職に比べて高かった。福祉専門職では「知識と情報に関すること」を課題と捉えている割合が看護師に比べて高かった。

表1. 職種間(看護師・福祉専門職)の課題内容の差異

コーディング・コード	看護師	福祉専門職	P値 ^c
1. 相談と相談体制に関すること	475 (43.3%) ^a	213 (44.0%) ^b	0.783
2. 支援技術等に関すること	445 (40.5%) ^a	167 (34.5%) ^b	0.025
3. 知識と情報に関すること	321 (29.2%) ^a	204 (42.1%) ^b	<0.001
4. 広報と研修に関すること	123 (11.2%) ^a	32 (6.6%) ^b	0.004
5. 相談の質や傾向に関すること	55 (5.0%) ^a	28 (5.8%) ^b	0.541

a. 括弧内の数字は看護師の記載した総文章数中 (n=1098) の出現頻度を示す。
b. 括弧内の数字は福祉専門職の記載した総文章数中 (n=484) の出現頻度を示す。
c. Fisher's exact test による。

D. 考察

研修会には職種、年代、職種の経験年数、勤務形態が違う者が参加しており、このような職業的背景やキャリアが異なる受講生の

特性を踏まえたプログラムの提供が重要であることが示されたと考える

つぎに、自由記述データの質的分析とコンピュータによる計量テキスト分析から導き出された肝疾患相談・支援センターの相談員が抱える課題内容は、主要課題の順序に若干の違いはあったものの、同じ傾向が示された。つまり、肝疾患相談・支援センターの相談員が直面する課題は以下の四つに集約することが可能であることが分かった。

第一に、相談を受ける上で必要となる支援技術について、第二に、医療と福祉的専門知識や情報、さらにそれらの取得方法について、第三に、相談体制とそこから派生する各種課題、第四に、拠点病院活動に関する課題（啓発・情報発信、地域連携、人材育成・研修活動等）が導き出された。

同時に、看護師と福祉専門職の二職種間を比較すると、「相談と相談体制に関すること」の内容が両職種共通の課題でありつつも、看護師では「支援技術等に関すること」、「広報と研修に関すること」が、福祉専門職では「知識と情報に関すること」の割合が高いように、職種により課題内容に差異が存在することが明らかになった。

E．結論

より良い肝疾患相談支援のためには、相談体制の整備が不可欠である。その上で、肝疾患相談の多様性を前提とし、職種の違いによる課題に考慮しながら相談員の抱える具体的かつ実際の課題を軸に研修プログラムを開発することが非常に重要である。

F．研究発表

1．論文発表

投稿中。

2．学会発表

未定。

G．知的財産権の出願・登録状況
なし。